

令和 7 年 第 1 5 回 定 例 公 安 委 員 会 会 議 録

開 催 日 時 令和 7 年 5 月 2 9 日（木）午前 1 1 時 1 0 分～午後 4 時 2 0 分

開 催 場 所 警察本部

第 1 定例会議

1 開催時間 午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 3 0 分

2 出席者

公安委員会 勝部委員長 久本委員 笠田委員

警察本部	青山警察本部長	森本警務部長	山柝生活安全部長
	細田刑事部長	宮田交通部長	永島警備部長
	山本警察学校長	永井情報通信部長	生田警務部参事官

（事務局等～柳原公安委員会補佐室長、総務課員）

3 議題事項

4 報告事項

- 交番・駐在所事務所内の暑熱対策（警務部）
- 令和 7 年度鳥取県警察柔道・剣道大会の開催（警務部）
- 山岳遭難防止対策の推進（生活安全部）
- 金融犯罪被害防止にかかる連携協定の締結（刑事部）
- 令和 7 年度鳥取県水防訓練への参加（警備部）
- 6 月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

（ 1 ）交番・駐在所事務所内の暑熱対策（警務部）

警察本部

令和 7 年 3 月 3 1 日に、警察庁が定める「警察官等の服制に関する規則」が改

正され、交番・駐在所で勤務する警察官は制帽又は活動帽を着用しないことができるとされた。これまで、交番・駐在所勤務員については、事務所内でも制帽・活動帽を着用しておく必要があったが、職員の健康で安全な職場環境を確保するとともに、業務効率の向上を図るため、暑熱対策の一環として令和7年6月1日から、事務所内における脱帽を可能とする試行運用を開始することとした。

本件については、県民の理解を得るため、報道機関に資料提供し、周知を図ることとしている。

委員

暑さ対策は国を挙げての重要な案件だと思う。職員の命や業務効率にも関わるので、県民の理解を得ながら対策をお願いする。

委員

職場における熱中症対策が義務化となる。これまで警察官が事務所内で帽子を被らなければならなかった決まりを変えることは大変良いことである。職員の命を守るため、しっかりと対策をお願いしたい。

熱中症対策の中で、症状に気付くことが一つのポイントとなっているが、本人も症状に気付かないことがあると聞く。駐在所は1人勤務のところが多いので、誰かが気付いてあげられるような対策も課題だと思う。

委員

帽子を被ったまま事務仕事をするのは大変だと思う。暑さ対策をしっかりと行い、体調管理に留意していただきたい。

(2) 令和7年度鳥取県警察柔道・剣道大会の開催（警務部）

警察本部

本年6月13日に鳥取市武道館で令和7年度鳥取県警察柔道・剣道大会を開催する。競技種目の内容は、柔道・剣道ともに団体戦と女子個人戦を実施する。団体A組については、本部A、本部B、警察学校、鳥取警察署、倉吉警察署、米子警察署が出場する。団体B組については、郡家警察署、智頭警察署、浜村警察署、琴浦大山警察署、境港警察署、黒坂警察署が出場する。団体戦終了後には、昨年度と同様に、模範試合として柔道特別訓練員及び剣道特別訓練員による試合を行う。また、各団体戦、個人戦の優勝、準優勝については表彰を行う。

委員

鳥取県は小規模県であるが、出場する選手は切磋琢磨し、しっかりと力をつけていただきたい。

委員

柔道・剣道は日本の大切な国技である。柔道は様々な国際大会が行われているものの、剣道には主要な国際大会がなく、日本警察のおかげで国技を保つことができていると感じる。警察術科は心技体を鍛えるものであり、訓練や大会を通じて、鳥取県警察のレベルアップを図っていただきたい。

委員

警察学校の学生も大会に出場されるとのことである。日々の訓練に励み、是非大会で頑張ってもらいたい。

(3) 山岳遭難防止対策の推進（生活安全部）

警察本部

県内の山岳遭難発生状況について、過去5年間の遭難発生状況を比較すると、令和2年はコロナ禍であり登山者も少なかったことから、遭難件数も少なく、死者もいなかった。コロナ禍を過ぎてからは、登山者の増加に伴い遭難件数が年々増加傾向にある。

令和6年中の遭難発生状況について、山域別では、大山山系での遭難件数が全体の約7割を占めている。本年も、5月8日現在で、県下で5件6人の遭難事案が発生し、2人の方が亡くなっている。

遭難の原因については、転倒、滑落、道迷いが多数となっており、特に、夏季は熱中症、冬季は滑落などが多い状況であり、死亡事案は冬季に多く発生している。昨年は、遭難者の約7割が県外居住者であり、遭難者の約3割が登山届を提出していなかった。また、遭難事案の約6割で、ヘリコプターによる発見・救助活動を行っている。

次に、登山届提出数の推移であるが、登山届の提出数は年々増加傾向となっており、県外居住者、外国人による届出も増加傾向にある。また、登山地図アプリ等による提出が、昨年は届出全体の約5割を占めた。

次に、遭難防止対策であるが、広報活動については、視覚的に注意喚起を促すため、令和6年版大山遭難マップを作成し、大山寺駐在所、大山寺周辺等関係先へ掲示したほか、琴浦大山署ホームページや公式SNSに掲載した。また、外国人登山者が増加していることから、英語の広報啓発チラシを作成し、大山寺駐在所等に掲示している。今後は、中国語、韓国語のチラシを作成する予定である。さらに、採用募集活動を兼ねて、春と夏に西部地区の高校山岳部と連携した広報を行っている。

山岳パトロールについては、春と冬に鳥取県山岳・スポーツライミング協会との共同によるパトロールを実施している。また、琴浦大山警察署独自でパトロールを行っており、その際は6合目の避難小屋で登山者に対する呼び掛けを行いながら、遭難発生に備えた待機体制をとっている。

遭難救助訓練については、消防防災ヘリコプターによる救助活動が多くを占めていることから、消防と連携した訓練を実施しているほか、警察本部主催の夏山救助訓練を実施したところである。

今後の課題としては、県外居住者や外国人の登山者が増加している傾向にあるため、SNSを利用した幅広い広報活動や、登山者の実態を見て多言語のチラシの追加作成を検討している。また、夜間・冬季における遭難事案の発生もあるため、救助を担当する警察官の練度を向上する必要がある、継続的な訓練を行うこととしている。

本年6月8日に大山夏山開きが行われ、本格的な夏山シーズンを迎える。昨今の登山ブームもあり、登山者の増加が見込まれ、それに伴い遭難事案の増加が懸念される。引き続き、効果的な遭難防止広報、遭難救助技術の練度向上に努めていきたいと考えている。

委員

コロナ禍以降、登山ブームとなっており、高齢の登山者も増加していると耳にする。広報活動のおかげで、登山届を提出される方が増加しているとのことであり、良いことだと思う。救助訓練もしっかりと実施されており、大変心強い。外国人の方はきちんと装備をしないで登山されるといった報道を目にするので、引き続き広報に力を入れていただき、遭難事案が減少するよう努めていただきたい。

委員

大山は標高の割に危険な山だということが遭難死亡者数を見て改めて感じさせられた。その中で、鳥取県警察として広報活動、パトロール、救助訓練と、懸命に活動を実施していただいております、有り難いと思っています。

ヘリコプターで対応する活動も増えてきているかと思うが、ドローンの活用は考えているか。

警察本部

山岳遭難捜索にドローンを活用した事例はある。必要に応じて、警察及び関係機関が保有するドローンを活用することとしている。

委員

ドローンは天候が悪い時も飛ばせるので、検討すべき課題かと思う。

委員

琴浦大山警察署では、SNSを活用した発信を積極的に実施している。普段、接客業をしていると、インバウンドの方の多言語化が進んでいると感じており、各言語に対応するためにはどうしていくのかが広報の課題になると思う。引き続き頑張ってもらいたい。

(4) 金融犯罪被害防止にかかる連携協定の締結（刑事部）

警察本部

特殊詐欺及びSNS型の投資・ロマンス詐欺等の金融犯罪被害について、県警察と県内金融機関、中国財務局鳥取財務事務所が連携を強化し、被害拡大防止及び早期犯人検挙を図るために、金融犯罪被害防止に係る連携協定を締結した。

締結式は、本年5月7日に、鳥取銀行本店3階大会議室で行った。締結式には、県内の金融機関14機関と、中国財務局の鳥取財務事務所、警察本部は本部長が出席した。

協定の締結に至った経緯については、令和6年中における県内の特殊詐欺被害件数が過去最高であった前年の認知件数を更新し、また、SNS型の投資・ロマンス詐欺の被害額も6億円を超すといった、極めて深刻な情勢を踏まえ、金融機関と鳥取財務事務所、県警察との間で、適宜会合を開き、被害防止対策について実務的な協議をしていた。また、令和6年5月に県内の金融機関や鳥取財務事務所、県警察などの関係機関が特殊詐欺被害撲滅のための共同宣言を行い、特殊詐欺の被害防止に向けた対策を進めていたが、この取組を更に強化するため、協定を締結したものである。

協定の主な内容について、金融機関側は、モニタリングにより、特殊詐欺等の被害のおそれが高いと判断される取引を検知した場合の警察への通報と必要な情報提供、特殊詐欺等の金融犯罪に係る警察の捜査照会に対する迅速な回答、被害のおそれが疑われる顧客への声掛けと警察への通報、金融犯罪に関する広報啓発活動を行うこととしている。警察側は、通報に基づく顧客への被害確認や指導及び捜査、また、金融犯罪被害の情勢と必要な情報提供や助言をすることとしている。

今後も関係機関との連携を強化し、多発する特殊詐欺等の被害撲滅と被疑者の早期検挙等、県民の安全安心を守る取組を一層強化していきたいと考えている。

委員

広報活動を実施していただいておりますが、金融犯罪についてはしっかりと周知していただいているが、年々犯罪件数が増加しているとのことであり、対策の難しさを感じる。この度、連携協定の締結を行っていただいたが、連携協定を生かし、金融犯罪を防いでもらいたい。

委員

特殊詐欺の犯人は、次々と新たな手口を考えてくるので、十分注意していく必要がある。最近では、証券口座を乗っ取り、勝手に株式が売買される手口が報道されている。今後も情勢に応じた対策が必要となるので、県民の安全安心のためにもよろしく願います。

委員

時代はシフトしてきているので、引き続き関係機関との連携を強化していただきたい。

(5) 令和7年度鳥取県水防訓練への参加（警備部）

警察本部

この度の鳥取県水防訓練は、出水期に備えて、千代川流域における洪水を想定し、水防関係機関、地域住民等参加のもと水防に係る各種訓練を行い、訓練参加機関の連携強化、地域住民の水防への意識啓発を図る目的で実施した。

水防訓練は、本年5月18日に鳥取市西品治地内の千代川河川敷で実施し、訓練参加者は、鳥取県、県東部地区の自治体、各市・町の消防団、消防、自衛隊等から約400人が参加した。県警察からは、警備第二課、機動隊、鳥取警察署の14人が参加した。

訓練内容について、鳥取県土整備事務所、鳥取市など東部地区の自治体は、洪水情報伝達訓練を実施した。各地区消防団と鳥取大学の学生は、土嚢積みとシート張り等の水防工法訓練を実施した。警察は、消防・自衛隊と合同で、土砂・埋没車両から車内に残された要救助者を救出する人命救助訓練を実施した。同訓練において、機動隊員が埋没車両周辺の土砂をスコップで排除し、自動車ガラスを破壊する専用工具でリアガラスを破壊して侵入経路を確保し、消防に救助活動を引き継ぐなどして関係機関と連携を図った。実際の被災現場では、任務分担に明確なルールがなく、臨機応変な対応が求められることから、この度の訓練は現場の状況に応じた有効な救助方針を立てる上で、一つのモデルケースとなった。

また、この度は鳥取警察署と連携し、警察の広報ブースを設け、過去の災害写真の掲示、警察官採用広報、子ども用制服試着を行った。広報ブースに、訓練に参加していた鳥取大学の学生が訪れたことから、採用パンフレットを配布したところ、「警察官に興味が湧きました。」との反響があった。

委員

これから、水害が起こりやすい季節を迎える。県民もしっかりと備えていかなければならないと思っているが、この度の訓練は、大規模な水防訓練であった。訓練の成果を生かし、対応していただきたい。

委員

近年は、毎年全国のどこかで洪水や氾濫が起こっており、訓練の重要度が増している。今回の訓練には、大変多くの方が参加しておられ、訓練を通じて分かったこともあると思うので、訓練で得たノウハウを蓄積していただきたい。

今回、広報ブースを設けられたとのことであるが、採用につなげるためにも、是非こういう機会を利用し、警察の魅力を県民の方にアピールしていただきたい。

委員

優秀な警察官を採用するため、広報ができるチャンスを認めた際は、積極的な広報を行い、警察職員の確保につなげていただきたい。

(6) 6月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

警察本部

入校関係は、採用時教養として、初任科第101期・102期及び初任補修科第48期が引き続き入校している。専科については、術科指導者、災害警備、交通管理、職務質問、検視実務、通信指令、人身安全関連事案対策専科がそれぞれ入校予定である。

令和7年6月中の行事・訓練関係等について、初任科生は、第101期が中間試験を実施する。初任科生全体では、鳥取県警察柔道・剣道大会への出場、無線従事者養成講習、部外講習として「新社会人のための新聞講座」及び「警察官のための手話講習」の受講を予定している。初任補修科生は、鑑識教養及び初級検定、サイバー事案対処能力検定、基礎的捜査書類作成能力検定の受検、部内功労者講義の受講を予定している。

令和7年5月中の行事・訓練等の状況であるが、初任科生は拳銃貸与式、逮捕術基礎級検定を受検した。初任補修科生は、入校式を挙行し、警務部長による訓育を受けた。

委員

専科が7課程入校するとのことで、採用時教養中の学生に先輩の姿を見せることは大切なことである。様々な行事、訓練を実施されるとのことであるので、よろしく願います。

委員

警察は教養制度がしっかりしている組織で、県民の安全安心を守るためには必須のことである。新社会人のための新聞講座を計画していただいているが、今は新聞を読む方が減っているということで、新聞というのは最もフェイクがない媒体で、大切な情報源である。この教育はしっかりお願いしたい。手話講習についても、鳥取県は手話言語条例がある県で、ノーマライゼーションの観点から、県民の方にしっかり対応できるように願います。

拳銃貸与式について、警察官に与えられた責任の証だと思うので、しっかりと意味を伝えていただきたい。

是非、学生の心の状態を見ていただきながら、愛情を持って厳しく鍛えてもらいたい。

委員

6月に入校者が多く、初任科生等にはこの機会に先輩警察官との交流があれば良いと思っている。一生懸命頑張っておられることが分かったので、術科大会等も頑張っていたきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取6件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

3 事前説明

4 報告事項

5 決裁

公安委員会規程の一部改正について

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。